

会 議 録

令和元年12月6日作成

会議名	第6回木更津市民会館整備検討委員会		
開催日	令和元年11月28日(木)	場 所	駅前庁舎8階 防災室・会議室
時 間	午後2時00分～午後4時30分		
出席者	委 員：倉田委員長、伊藤委員、松井委員、宮崎委員、土居委員 地曳委員、渡部委員 事務局：総務部 伊藤次長 総務課) 曾田課長、安田副主幹 管財課) 勝畑参事兼課長、岡田参事、平本主幹 (株)シアターワークショップ 伊藤代表取締役、佐藤氏、古川氏、伊藤氏 【木更津市中規模ホール整備基本計画策定業務受託者】		
議 題	1 第5回委員会議事内容の確認について 2 施設計画及び規模について 3 管理運営について 4 概算事業費と整備手法について 5 事業スケジュールについて 6 基本計画(案)について		
公開・非公開の別	議題1～6 公開		
傍聴者数	3人		
配付資料	○会議次第 ○資料1 第5回委員会議事内容の確認 ○資料2 施設計画および規模 ○資料3 管理運営に関する考え方 ○資料4 概算事業費と整備手法の検討 ○資料5 事業スケジュール ○資料6 基本計画目次(案)		
会議概要	別紙のとおり		

○司会

本日は皆様お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

ではまず初めに、配布資料のご確認をお願いいたします。

【配布資料確認】

なお本日の会議は公開で行います。

会議の傍聴希望される方がおりますので、ここで、傍聴人の方に入ってください。

【傍聴人入場】

それでは、ただいまより第6回木更津市民会館整備検討委員会を開催いたします。

ここで会議の定足数についてご報告させていただきます。

附属機関設置条例第6条第2項の規定によりまして、会議は委員の半数以上の出席がなければ開くことができないとなっております。

本日、古橋、石村、岩埜各委員より欠席のご連絡を受けておりますが、全10名中7名のご出席をいただいておりますので、委員会は成立することを報告させていただきます。

なお本日の委員会につきましては、会議録作成のため会議内容を録音させていただきますのであらかじめご了承ください。

また、発言の際は、お手元のマイクのボタンを押し発言後は、もう一度ボタン押してマイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。

それでは初めに倉田委員長よりご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくようお願いいたします。

【倉田委員長あいさつ】

○司会

それでは早速議事に入りたいと思っております。

附属機関設置条例第6条第1項に、委員長が会議の議長になるとございますので、ここからの議事進行につきましては、倉田委員長にお願いしたいと思います。

なお通常であれば、議長席をお作りして、そちらで議事を進めていただくのですが、会議の進行の都合上、席をお作りすることができませんので、本日は自席にて、進行をよろしくお願いたします。

では倉田委員長よろしくお願いたします。

○倉田委員長

それでは議事を進めさせていただきたいと思っておりますが、発言される際は挙手をお願いいたします。

本日の議題は6件となっております。

それではまず、議題1. 第5回委員会議事内容について事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局

この後の議題の進め方についてですが、説明の方は議題の1から2まで、及び議題の3から6までに分けさせていただきますので、説明終了の都度、質疑応答をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

それでは、シアターワークショップより説明いたします。

○シアターワークショップ佐藤氏

【議題1から2について続けて説明】

○倉田委員長

いろいろご意見いただければと思いますが、特に今日は、前回の委員会でも少し議論になっておりましたが、ホールが可動席か固定席かというあたりの方向を出せたらと思っております。

あと、同時に、事務局の方からご説明された構造、創造交流部門が、まだ漠然としていますので、ある程度の面積を絞っていきたいと考えています。

できるだけコンパクトにできればいいという市の意向もあり、今日は最終的に詰めるということをお前提にしておりますので、ホールについて少しご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○松井委員

前回の資料で変更された委員会のスケジュールを見ましたが、1月に1回、2月中に2回で、基本

計画を策定する流れで大丈夫なのかと思うのですが。

○倉田委員長

今日できるだけ施設計画のあたりを進めて、管理運営、事業スケジュールについては、今日少し説明を受けて、次回議論したいと思っています。

○松井委員

1月10日の内容は基本計画となっていますが、その辺も含めてということでもいいですね。

○倉田委員長

今日は施設計画をできるだけ詰めてしまいたいと思っておりますので、その辺を中心にご意見いただければと思います。

○土居委員

先ほどの説明で部屋ごとに細かく面積を示した一覧表がありましたが、後で資料としていただけますか。

○伊藤委員

ホールの位置づけ、交流関係の位置づけについて、重点の置き方がポイントになると思います。

基本的な考えとしてメインホールは鑑賞としての機能、多目的ホールは創造・交流に近づけて良いと思いますが、ランニングコストが気になります。

人件費、自主事業費を含めて何をやっていくのか、良い音楽を聴きたいという声があるのであれば、自主事業費を確保する必要があり、大きな意味での資金が見えてこない限り議論は進まないのではないかと思います。

運営のイメージを明確化し、木更津のホールとしてどういう意味を持つのかを考える必要があるのではないのでしょうか。

○倉田委員長

この辺はちょっとなかなか悩ましいところで、理想を言えば、もう少し運営のことを意識しながら、施設計画を考えるということが必要だろうとは思いますが。

本施設の位置づけについて、市民の鑑賞なのか、市民の日常利用の場なのかによって施設計画も変わってきます。

また、多目的ホールの位置づけも考える必要があり、創造活動部門と機能が重複するところもあるかもしれません。

可能であれば、管理運営を意識しながら施設について議論していただきたいと思っています。

○伊藤委員

では、その関連ですが、メインホールを可動とし稼働率を上げ、多目的ホールは小ホールを兼ねつつ汎用性の高いものにするというのも一つの案だと思います。

ただ、そうした時に、メインホールの稼働率を想定する必要があると考えます。時間帯や曜日によっても異なります。

多目的ホールをどう捉えるかによってメインホールに対する考え方も変わってくると思うのですが。

○事務局

今の中ホールの稼働率について申し上げます。

まず総営業日に対する稼働率ですが、概ね240日の7割ぐらいで、行事や練習などが入っております。

それから、区分による稼働率ですが、午前、午後で同じぐらいの稼働率です。

夜間がどれくらい入っているかは、今、はっきりとわかりませんが、そう多くなかったと記憶しております。

○倉田委員長

確認ですが、現中ホールはここでいうメインホールと同じではないのではないかという気がするのですが。

○事務局

イメージとしては、今の木更津市市民会館中ホールは、多目的ホールの役割に近いと考えておりま

す。

○松井委員

交流部門も含めて貸館としての現中ホールの利用実態が分かりません。

今利用している市民(団体)のニーズに本当に沿っているのかどうか、市民団体に無料で貸し出している例はあるのか、事業方針はどうなっているのか、主催事業などは考えているのか、その辺りを少し伺いたいのですが。

○事務局

現状では、市内の小中学校に対しては無料で貸し出しており、老人クラブ・社会福祉協議会などの公共団体には半額で貸し出しております。

現中ホールは貸館中心で、自主事業については、年に1回指定管理者による芸術系のイベントを開催している程度です。

大ホールでは自主事業を定期的で開催していただきましたので、新市民会館でも同じように主催していきたいと考えています。

○松井委員

話を伺う限り、現市民会館の運営方針を継続するように聞こえますが、新市民会館で市もしくは指定管理者が市民利用の促進を含めた事業展開などに力をいれていくのでしょうか、また、それに関して計画する機会は今後無いのでしょうか。

○事務局

大ホールでは貸館業務だけでなく、市による文化振興事業を開催しておりましたが、新市民会館でも同じように取り組んでいきたいと考えております。直営か指定管理者かについては現時点では考えておりません。

○松井委員

そうすると、文化振興についてこれから活性化させていく事業計画などを考えているのでしょうか。

○シアターワークショップ

事業計画と施設規模を設定するにあたり、事業計画とは必ずしもリンクしておりません。

他の施設の現状を踏まえながら規模などを設定している状況です。

○倉田委員長

講演会や市民の発表会の利用が多いと聞いていますが、その比率が気になります。

ホールの稼働率を上げるという議論をする場合、どういう使い方を想定してのことなのか。

また、自主事業などを増やすのであれば、企画運営能力も問われますので、利用イメージが明確化するとホールの議論をしやすくなると思いますが。

○事務局

市民団体の公演利用、市民の発表の場は貸館という位置づけですが、興行公演や学校公演の割合などの数字は、申し訳ありませんが、今すぐにはわかりません。

○伊藤委員

大ホールでは自主事業、中ホールは貸館、新しい中規模ホールはその中間になると思いますが、中規模ホールが大ホールの代替機能をもつのか、それとも中ホールなのか、性格付けが重要です。

役割分但を明確化させるべきだと思います。

中ホールにおいて自主事業を展開するのであれば、徹底した運営体制が必要であり、市民の活動支援のためにはファシリテーター・エデュケーター型などの専門家が必要です。

基本構想の「にぎわい交流拠点」に基づいて、創造・交流部門に力を入れるべきでないのかと思います。

また、中規模ホールの稼働率がどのようになるのかが想像できません。

今は、240日ではなく、300日計算で稼働率を算出しなければならないと考えますが、実際に700席のホールをどれだけ市民が借りて使っていくのかも含め、多目的の使い方というものがすごく難しいのではないかという気がします。

○松井委員

「にぎわい交流拠点」という位置づけがベースにありますが、メインホールは外から色々な催し物が入り込めるという方向性とするのはどうかと思います。

事業計画をいまから作るのは難しいですが、このホールの使い方、流れを抑えていく必要があります、多少将来性のある利用イメージは立てたほうが良いと思います。

メインホールをフレキシブルにし、加えて創造交流部門にも力を入れるのであれば、ランニングコストが倍かかることとなります。

ただ、メインホールをフレキシブルにして、ほかの付帯施設でそれを補完するという考えもあります。

○倉田委員長

メインホールは、音楽専用のイメージがあったが、稼働率を上げるためには多目的利用を想定した多様性のあるホールが良いのではと思います。

平土間にしてもある程度の音響性能は持つことができます。

しかし、そうすると多目的ホールが中途半端な位置づけになるかもしれません。

多目的ホールは創造部門の延長線上にあるものだと思うのですが。

○松井

キラリふじみのマルチホールは 500 人収容でき、パーティー利用が多く、パントリーも備え付けられています、ここでのメインホールは鑑賞の場になると思います。

多目的ホールの方が市民にとってはメインの場になるのではと考えられ、集会など地域に根付いた利用を期待できるのではないのでしょうか。

○事務局

大ホールを休止し、もう 4 年になります。

休止時に文化芸術団体より文化芸術の中心となるホールをぜひ、発表の場として、作っていただきたいという強い要望もあったため、第 2 次基本計画において、文化芸術を推進する施設の必要性を唱えました。

大ホールでは 500～700 人規模の利用が一番多かったため、中規模ホールはその利用を想定した、文化芸術の発表の場とする方向性で考えております。

また、市民の方に集まってもらうために公民館的な場としたいと考えていますし、メインホールを可動にすれば、いまの中ホールのような使い方でもできると考えています。

○伊藤委員

メインホールと多目的ホールの位置付けを今日決める必要があると思います。

A 案としては、メインホールは芸術文化の鑑賞・発表の場とし、多目的ホールはパーティー、練習、市民の発表などに対応できるようにし、広場と一体化できるよう徹底的に多目的化する。

また、B 案としては、メインホールを多目的にし、鑑賞利用も可能であるが、メインホールでこそお祭りをやるという方向性で、多目的ホールは逆に 300 人ぐらいの音楽専用としてしまうという。

基本的には A 案が良いとは思いますが、B 案の考え方と比較し、どちらが良いか方向づけを決めて次のステップに移った方がいいと思います。

○倉田委員長

茅野市民館は後者になります。300 人の方が音楽専用の固定のホールで、800 人の大ホールの方が多目的です。300 人の音楽ホールでできることは限られますが、市民の発表の場としては 300 人ホールは使いやすく、非常によく利用されています。

しかし、一方で創造活動・交流部門が縮小されるのは、これからの施設のあり方としてはもったいないかなと思います。

○地曳委員

700 人規模のホールを平土間とする案がありますが、実際の運営上、維持管理費や手間はどれぐらいかかるのでしょうか。

○シアターワークショップ

可動席の出し入れは小屋付きのスタッフが言い、それなりの人数を必要としますが、技術的に難し

いものではありません。数時間程度で移動ができます。

○倉田委員長

電動の場合、時間はかなり短縮できますが、コストはかかります。

ブロック毎に移動できるようにすれば、結構汎用性があると思います。

ただ一方で、一応稼働にはしたが、ほとんど平土間にしなくて、固定としてずっと使っているというような施設もあります。

○宮崎委員

多目的ホールのサイズ感が分かりません。また、固定の舞台は作らないのでしょうか。

君津文化ホールではピアノの発表会や高校の演奏会などが定期的に行われていますが、メインホールを固定で質の良い環境にすれば、君津に流れた木更津市民が戻ってくると思います。

○事務局

多目的ホールは現中ホールよりも少し小さいイメージです。

○倉田委員長

多目的ホールに固定舞台を設けることは想定していないと思いますが、簡易な音響設備は設置できます。

○宮崎委員

つまりピアノの発表会とかそういうのは、そこではできないということですね。

ピアノの発表会については、メインホールを使うという想定ですか。

○事務局

今想定している多目的ホールは、収容人数が大体 200 人から 300 人ぐらいですが、舞台を新たに設置するというのは今のところ想定しておりません。

○渡部委員

宮崎委員とは反対の意見になりますが、市としては 3 4 ページの④案を提案しているところがあり、メインホールはさまざまなイベントに対応できる平土間とした方がいいと思います。

多目的ホールを縮小し、創造活動部門を広げるといった考え方もあります。

ピアノの発表会はメインホールが可動席であっても、音響等を備えていけばできると思います。

○宮崎委員

可動席にすると費用がかかりますので、固定席の方が良いのではないかと考えたところです。

○松井委員

要するに市民に開かれた施設にするということだと思います。

メインホールに便宜性を持たせるのか、それとも多目的ホールを市民の為のものとするのかですが、個人的には、メインホールに鑑賞としての機能を持たせ、多目的ホールを市民の多様な場とする方が良いと思います。

○土居委員

中ホールが閉鎖される 15 年後は、平土間ホールがなくなります。

多目的ホールに関しては、席数にこだわらず、必要な設備を揃えること、機能的に充実させることを考えることも重要だと思うのですが。

○松井委員

席数が利用者のニーズと合わないと、利用料金が割高になる事もあります。

運用の仕方、色々な催し物に対応させるというやり方もあり、キラリふじみのマルチホールではピアノの発表会が行われています。

メインホールよりも音響は劣りますが、対応できています。

○伊藤委員

メインホールを固定、多目的ホールを可変としてもいいと思います。

メインホールを可動にすると利用料金が上がると思いますので、市民のためには利用料金の上がない方法を選択すべきではないでしょうか。

創造交流部門に大きなスタジオを設けて、それを多目的ホールとして位置づけてもいいと思います。若者のためにも、小さな練習室はたくさん必要だと思います。

○倉田委員長

私は創造部門とか交流部門というのを、あまり分けて考えなくてもいいのではないかという気がします。

使い方によってですが、創造交流部門もスペース的に考えれば、想定している面積の80%くらいでも十分に期待した機能を満足できると思います。

○松井委員

多目的ホールを軸に創造・交流部門でまちのイベント利用ができ、文化芸術に縛られずに交流が生まれるといいと思います。もう少し多様な利用があってもよいのではと考えます。

○土居委員

ホールでの催事が無いときでも市民が集まる施設としたいと思います。

○倉田委員長

規模に関係なく、図書機能があると日常的に人が集まる施設になると思います。

親子、ファミリー世代が集まり、幼い頃から文化芸術に関われる機会を創出してほしいですし、親子の滞留時間が長くなるような場づくりがあるといいと思います。

○伊藤委員

英ヨークシャープレイハウスは、午前中は子どもや高齢者、日中はサラリーマンのランチ、母親世代の居場所、夕方はレストランになります。これは、運営のやり方次第だと思います。

○倉田委員長

部屋を細かくしすぎると中で行われていることが見えなくなります。

オープンにして互いの活動が目に見えると市民にとっての刺激になると思います。

レストランやカフェについて皆さんはどう思われますか。

○伊藤委員

カフェ程度は施設内にあってもいいですが、レストランは施設内ではなく、外部に出した方がよいと思います。

ホールができたことによって、店ができていくという方がまちにとっての効果が高いと思いますので、例えば、ホールの近くにお店を開きたい方に対して、最初の2~3年間は税制上の優遇などを行い、誘致をしていく方がいいのかなと感じています。

○土居委員

魅力ある施設にするためには、カフェなどがあつた方がいいのではと思います。

○倉田委員長

必ずしも大きなカフェやレストランを作らなくとも、市民の交流スペースに付属して飲食できる場を設けられれば良いと思います。

また、施設内にキッチンなどの厨房機能があれば、レセプションやパーティーの場としても機能します。万が一の災害用にもなると思います。

○松井委員

建設予定地の周囲が賑やかでないので、施設内に軽く飲食できる場は必要だと思います。

○倉田委員長

では、本日は時間がもうかなり経ってしまいましたので、今までの議論を踏まえ、次回に向けて事務局の方でまとめていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局

資料3以降につきましては、次回ご議論していただきたいと思います。

本日皆様からいただいた意見をもとに、資料を作成し、次回は計画案についてもご審議いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○倉田委員長

ちょっと予定より長くなってしまいましたが、今事務局の方からお話ありましたように、今日は1、2の議題で、残りは次回ということで、本日の委員会は閉めさせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

○司会

皆様、長時間のご審議ありがとうございました。
最後になりますがその他といたしまして、今後の委員会スケジュールについてご連絡いたします。
次回、第7回検討委員会につきましては、1月10日（金）14時からの開催を予定しておりますので、出席につきましてご配意の程よろしくお願いいたします。
それでは以上をもちまして、第6回木更津市市民会館整備検討委員会を終了いたします。
本日はありがとうございました。

上記会議録を証するため下記署名する。

令和2年1月10日

木更津市民会館整備検討委員会委員長 倉田 直道